

著者紹介

Clark Thomborson

1980年カーネギーメロン大学卒業 (Ph.D). 1996年ニューゼラランドへ移民。同年オークランド大学教授。ソフトウェアセキュリティ、最適化、VLSI、データ圧縮等の研究に従事。

上田 和紀 (正会員)

1978年東京大学工学部計数工学科卒業。現在早稲田大学理工学部コンピュータ・ネットワーク工学科教授。工学博士。専門はプログラミング言語、並行・並列計算など。第7回日本IBM科学賞など受賞。2004年より日本ソフトウェア学会「コンピュータソフトウェア」誌編集委員長。

大石 進一

1981年早稲田大学大学院理工学研究科博士後期課程修了。工学博士 (早稲田大学)。1989年同大理工学部教授。現在同大理工学術院教授 (コンピュータ・ネットワーク工学科)。電子情報通信学会論文賞 (3回)、同学会猪瀬賞、大川出版賞、丹波記念賞、小野梓賞等受賞。精度保証付き数値計算の研究に従事。

小野 厚夫 (正会員)

1936年生。東北大学大学院理学研究科原子核理学専攻修了。理学博士。東北大学理学部助手、理化学研究所情報科学研究室研究員、高エネルギー物理学研究所物理研究系助教授、神戸大学教養部教授、同国際化学部教授。現在大手前大学社会文化学部教授。

甲藤 二郎 (正会員)

1992年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。同年日本電気 (株) 入社。1999年早稲田大学理工学部助教授。2004年同大理工学部教授。NEDO技術開発機構主任研究員兼任。

加藤 幹之

1977年富士通 (株) 入社。法務部で主に海外との契約や紛争を担当。その後、米国に17年近く滞在し、通商問題等の案件に対応する一方、インターネットや電子商取引等、IT分野の国際的な法制度確立に貢献。2002年に帰国し、2004年より現職。米国弁護士資格を持ち、論文や講演も多い。

木村 泰司 (正会員)

(社) 日本ネットワークインフォメーションセンター (JPNIC) 主担研究員。1999年奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士前期課程修了。同博士後期課程に在学中。認証システムとアクセス制御技術の研究および認証局に関する調査研究に従事。

木村 通男 (正会員)

1957年神戸生。1982年東京大学工学系研究科情報工学修士修了。1986年大阪大学医学部医学科卒業。医学博士。東京大学工学部助手、筑波大学臨床医学系助手、浜松医科大学医療情報部助教授を経て1996年より同教授。情報処理センター長。日本医療情報学会副会長。

河野 隆二 (正会員)

昭和59年東京大学大学院博士課程修了。工学博士。同年東洋大学講師。昭和61年同助教授。昭和63年横浜国立大学助教授を経て、平成10年同教授。昭和59～60年トロント大学研究員。情報理論、信号処理、スペクトル拡散通信、ITS、アレーアンテナ、SDR、UWBの研究に従事。

坂井 修一 (正会員)

昭和56年東京大学・理・情報科学科卒業。昭和61年同大学院工学系研究科修了。工学博士。電総研、MIT、RWCP、筑波大学などを経て、現在、東京大学大学院情報理工学系研究科教授。計算機システムとその応用の研究に従事。

著書「論理回路入門」, 「図説コンピュータアーキテクチャ」, 電子情報通信学会, 人工知能学会, IEEE, ACM各会員。

櫻井 三子 (正会員)

日本電気 (株) 勤務。1992年慶應義塾大学理工学研究科数理工学専攻修士課程修了。入社以来、インターネットセキュリティ分野の業務に従事。長くかかわってきた分野は認証。

佐藤 知正

1971年東京大学産業機械工学科卒業。1976年同博士課程修了。電子技術総合研究所、東京大学先端科学技術研究センター、東京大学大学院工学系研究科を経て、現在、同情報理工学系研究科教授。知能ロボットの研究に従事。

下山 勲 (正会員)

1982年東京大学大学院工学系研究科機械工学専攻博士課程修了。工学博士。同年東京大学講師, 1983年同助教授, 1998年同教授。現在、情報理工学系研究科教授。

末永 康仁 (正会員)

1968年名古屋大学・工・電気卒業。1973年同博士課程修了。同年電電公社入社。NTT研究所にて画像処理の研究に従事。1985～86年米国MIT客員研究員。1997年より現職。工学博士。電子情報通信学会フェロー。

杉原 厚吉 (正会員)

1971年東京大学・工・計数卒業。1973年同大学院修士修了。電総研、名古屋大学工学研究科などを経て、現在、東京大学情報理工学系研究科教授。数理工学、計算幾何学とその応用などの教育研究に従事。

高田 広章 (正会員)

名古屋大学大学院情報科学研究科教授。組込みシステム設計技術、リアルタイムOS、リアルタイム性解析技術などの研究に従事。オープンソースのITRON仕様OSなどを開発するTOPPERSプロジェクトの会長を務める。

武市 正人 (正会員)

1972年東京大学大学院修士課程修了。東京大学、電気通信大学を経て、1993年東京大学教授。2001年同情報理工学系研究科教授。現在に至る。工学博士。関数プログラミング、構造化文書処理等の研究・教育に従事。

竹内 啓

1961年東京大学大学院経済学研究科博士課程修了。経済学博士。同大経済学部教授および先端科学技術研究センター教授を経て、1994年より現職。東京大学名誉教授。専門は統計学、計量経済学、日本経済論、科学技術論等。

田中 克己 (正会員)

1974年京都大学・工卒業。1976年同大学院修士課程修了。1979年神戸大学教養部助手、1986年工学部助教授。1994年工学部教授を経て、2001年より京都大学大学院情報科学研究科社会情報学専攻教授。京都大学工学博士。主にデータベースとマルチメディア情報システムの研究に従事。ACM TODS Area Editor, 情報処理学会論文誌: データベース共同編集委員長, 本会理事など歴任。本会フェロー, 日本データベース学会副会長。

田中 譲 (正会員)

北海道大学大学院情報科学研究科教授。1950年京都生。1974年京都大学工学研究科電子工学専攻修士課程修了。工学博士 (東京大学)。1970年代には並列計算機アーキテクチャとデータベース理論の研究に従事し、1970年代後半から1980年代前半にはデータベース・マシンの研究に従事する。この間、1985年よりIBM

ワトソン研究所に1年間、客員研究員として滞在。1987年より知識メディアの研究を開始し現在に至る。1990年より北海道大学大学院工学研究科教授, 2004年に機構改革により現職。1996年より北海道大学知識メディアラボラトリ長。1998～2000年京都大学大学院社会情報学専攻教授を併任。2004年より国立情報学研究所客員教授。著書「コンピュータ・アーキテクチャ」(雨宮真人氏と共著, オーム社, 1988), 「Meme Media and Meme Market Architectures (IEEE Press & John Wiley, 2003) など。

千原 國宏

1945年5月14日生。1973年大阪大学大学院基礎工学研究科博士課程修了。同大基礎工学部助手, 助教授を経て1992年奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科教授, 2002年から同研究科長。ユビキタス映像メディア, メディカル画像メディア, パーチャル画像メディアなどの研究に従事。工学博士。第47期システム制御情報学会会長。構造型基幹科学研究団体連合理事。IEEEなど各会員。

辻井 重男 (正会員)

東京工業大学工学部卒業。情報セキュリティ大学院大学学長, 中央大学研究開発機構教授, 東京工業大学名誉教授。工学博士。日本放送協会「第55回放送文化賞」(平成15年度) 受賞。著書「暗号—ポストモダンの情報セキュリティ」(講談社メチエ選書), 「暗号と情報社会」(文藝春秋社) など。電子情報通信学会会長など歴任。現在、日本学術会議会員。
E-mail:tsuji@iisec.ac.jp

中島 達夫 (正会員)

早稲田大学コンピュータネットワーク工学科教授。ユビキタス環境のための超スケラブル分散システム、センサを用いた実世界認識、組込みOSなどに興味を持つ。

中溝 幸夫

研究分野は、ヒトの視覚情報処理メカニズム、とりわけ方向や距離・奥行といった空間知覚、眼球運動と視覚との関係、視覚イリュージョンなど。趣味は山登り、スイミング。モットーは「常にバイオニアタレ」です。

西尾章治郎 (正会員)

1975年京都大学工学部数理工学科卒業。1980年同大学院工学研究科博士後期課程修了。工学博士。現在、大阪大学大学院情報科学研究科長。データベース、マルチメディアシステムの研究に従事。本会理事を歴任。本会フェロー、電子情報通信学会フェロー。

平木 敬 (正会員)

東京大学理学部物理学科, 同大理学系研究科物理学専門課程博士課程退学, 理学博士。工業技術院電子技術総合研究所, 米国IBM社T.J.Watson研究センターを経て現在東京大学大学院情報理工学系研究科勤務。

前田 三男

1964年九州大学工学部電気工学科卒業。1969年同大学院工学研究科博士課程修了。同大工学部講師, 同助教授を経て、1981年より同大学教授。現在、九州大学大学院システム情報科学研究院電子デバイス工学専攻教授。1997年より先端科学技術共同研究センター長。2001年より大学院システム情報科学研究科長を併任。その間、一貫してレーザー工学、光・量子エレクトロニクスの研究に従事してきた。1977年レーザー学会進歩賞, 1987年応用物理学会論文賞, 2000年プラズマ核融合学会技術進歩賞を受賞。応用物理学会, 電気学会, 電子情報通信学会, レーザー学会, Optical Soc. Of America等各会員。

益田 隆司 (正会員)

昭和38年東京大学工学部卒業。昭和40年(株)日立製作所。昭和52年筑波大学講師、助教授、教授。昭和63年東京大学理学部情報科学科教授。平成7～9年同大理学部長。大学院理学系研究科長。平成12年電気通信大学教授。平成16年より同大学長。本会論文誌編集委員、研究会主査、理事、監事を歴任。現在本会会長。

間瀬 健二 (正会員)

1979年名古屋大学工学部・電気卒業。1981年同修士課程修了。同年日本電信電話公社入社。1988～89年米国MITメディア研究所客員研究員。1995～2002年ATR研究室長。2002年より現職。博士(工学)。

村岡 洋一 (正会員)

1965年早稲田大学理工学部卒業。1971年イリノイ大学電気計算機学科博士課程修了。Ph.D. 1971～84年日本電信電話公社電気通信研究所。DIPSの研究に従事。1985年早稲田大学工学部教授。現在同大副総長。

門田 暁人 (正会員)

平成6年名古屋大学・工・電気卒業。平成10年奈良先端科学技術大学院大学・情報・博士修了。平成16年同大助教授。平成15～16年オークランド大学客員研究員。博士(工学)。

ソフトウェア工学、ソフトウェアプロテクション等の研究に従事。

安浦 寛人 (正会員)

昭和51年京都大学工学部情報工学科卒業。昭和53年同大工学研究科修士課程(情報工学専攻)修了。同大工学部助手、同電子工学科助教授を経て、平成3年より九州大学大学院総合理工学研究科情報システム学専攻教授。現在、同大学院システム情報科学研究院情報工学部門教授およびシステムLSI研究センター長。VLSIシステムの設計手法とCADの研究およびハードウェアアルゴリズムの研究に従事。平成4年本会論文賞、平成5年本会坂井記念特別賞およびBest Author賞、平成13年電子情報通信学会業績賞をそれぞれ受賞。平成11～12年度本会理事、平成15～16年IEEE CAS Society Vice President。電子情報通信学会、IEEE、ACMなど各会員。

山名 早人 (正会員)

1993年早稲田大学大学院博士課程修了。博士(工学)。1989～93年同大情報科学研究教育センター助手。1993～2000年通商産業省工業技術院電子技術総合研究所。2000年より早稲田大学理工学部助教授。

湯浅 敬 (正会員)

1989年東京大学大学院工学系研究科卒業。工学博士。松下電器産業、日本ヒューレット・パッカードを経て、現在Hewlett-Packard Laboratoriesにてエンタープライズシステムの研究に従事。

和田 英一 (名誉会員)

1955年東京大学理学部物理学科卒業。東京大学工学部、富士通研究所を経てIJJ技術研究所長。プログラム言語、操作システムなどソフトウェアシステムやインタフェースに関心があり、Happy Hacking Keyboard、和田研フォントの開発に関与。IFIP WG2.1、WIDEプロジェクトメンバ、プログラミング・シンポジウム委員長、本会誌編集長。

おひいすらん

静謐を愛する私の生活に、突如の擾乱が「風邪」の形で入り込みました。街医者で常の如く熱冷ましの頓服と喉の痛みにイソジンとトローチを処方して貰い、嗽を繰り返しながら一晩眠ればドッと汗をかいて次の日には治るのが普通ですが、用心のため更に一日休んで寝ているのが心得あるものの習いです。ところが今回はその一問屋が卸しませんでした。汗はかかず、熱は38度から下がらず、喉は痛み、ひたすら眠り続けるばかりでした。医者は首を捻りながら少しづつ薬を変えるのですが、変化がありません(以前定食屋で毎日日替わり弁当を食べていましたが中身が一緒なので、何が日替わりなのか聞いたところ「お客さん、これは日が変わるだけで中身は何時も同じなのです」という答えには驚きました)。唯一の変化は妻までもが感染し隣で一日中寝るだけになりました。この病気は体だけではなく気も病む恐ろしい病気です。全身に倦怠感が漂い気持ちは半分彼岸に行ってしまいました。残された娘が可哀想だとも思いましたが、更に考えてみれば夫婦で死んでしまうのだから可哀想も何もないものだと真理に行き着きました。老医の治療は表面的な現象を頓服やイソジンでもぐら叩きすることにより、患者本来の治癒力を最大限に引き出すものであることを理解しましたが、生憎と私はそのような哲学は持ち合わせぬ技術者の元プログラマーですから徹底した原因究明により病の根源を撤去するのが好みです(過日学会の電子図書館の認証がうまく機能していないことを知り原因を尋ねると「マシンの限界」とのこと、理解できないので「CPUネックか、メモリーネックか」と聞くと「マシンの限界です」「一体、何が問題なのだ。ハードウェアプロブレムかソフトウェアプロブレムか」には「判

りません、原因不明です」。かくのごとく世の中の「動かないコンピュータ」問題の大半はヒューマンプロブレムに起因することを確信しました)。

熱が下がらぬ5日目の朝、流石の私も名医の治療に疑問を持ち始め、友人の「自称日本一の内科医」に電話しました。「喉が痛い、熱が8度から下がらない、咳が出る、女房も同じ」「それは急性咽頭炎である。5日間も熱が続いたら通常の風邪である訳がない。抗生物質で細菌を殺さない限り治らない。しかし、大抵耐性菌だから抗生物質の選択が難しい。大丈夫そうなのはジスロマックでロキソニンを併用する。今から私のところに来れるかい」「無理だ、死んでしまう。近くの信頼できる大病院に行く。そこで貴方の見解と処方を伝える」「医者は他の医者が言ったことを不快がる人種だから言い方が難しいよ」。予約制の大病院に飛び込みで行ったので、3時間待たされて本当に死にそうになりましたが、医師が若手の美人であったのは幸いでした。友人の見解を伝えると喉をチラッと見て「それほど腫れていませんから違うと思います。クラリスという抗生物質を出します。効かなかったら肺炎かもしれないのでレントゲンを撮り別の治療を考えます」。そしてクラリスを飲み、眠る。6日目の朝9時目覚め、検温。「おー、おー、6度1分」。9時半、友人より電話。「熱は?」「6度1分」「よかったー、クラリスが効いた。耐性菌ではなかった。もう大丈夫だ。これで駄目だったら鎌倉まで往診に行こうと思っていたところだ」「あ、ありがとう」

こうして妻と私は彼岸から此岸に戻ってこれたのであります。(湖東俊彦/事務局長)

◻◻ ACM・IEEE・IEEE-CS の会費割引特典について ◻◻

各学協会との協定により、本会会員の会費が割引になります（本会 Web ページ：<http://www.ipsj.or.jp/06mem/kaiin/service-ta.html> 参照）。会員の皆様におかれましては大いに特典を活用していただき、学術・技術の向上にお役立てください。なお、入会申込み等詳細につきましては各事務局に直接お問い合わせください。

1. ACM (Association for Computing Machinery) <http://www.acm.org/>
正会員 (Voting Member) 会費を 20% 割引
2. IEEE (The Institute of Electrical and Electronic Engineers, Inc.) <http://www.ieee.org/>
IEEE-CS (IEEE Computer Society) <http://computer.org/>
Full Member (IEEE および IEEE + IEEE-CS の会員) の会費を 10% 割引

【照会／入会申込先】

◆ ACM 日本事務局

〒107-0062 東京都港区南青山 5-10-5 九曜ビル 903
Tel (03)5466-1761 Fax (03)5466-1762

◆ IEEE 東京支部

〒105-0003 東京都港区西新橋 3-6-2 ツカサビル 6F
Tel (03)5776-7670 Fax (03)5776-7671

◆ IEEE-CS アジア・パシフィック・オフィス

〒107-0062 東京都港区南青山 1-4-2 南青山渡辺ビル 6F
Tel (03)3408-3118 Fax (03)3408-3553

会 員 各 位

過去に発行された当会会員名簿は「会員相互間の連絡や情報交換」を目的としています。

最近この目的をはずれ、「広告、諸勧誘、商取引等の営利活動に不正に利用される」方がおられますが、このような行為は厳重に謹んでください。名簿を廃却される場合にも、再利用されることのないようご注意願います。

また、上記不正利用にあてはまらない場合でも、受け取った相手が不愉快な思いをされないよう、節度を持った利用をお願いいたします。

当会では、現在会員名簿を発行しておりません。

第 48 回通常総会の開催について

会長 益田隆司

第 48 回通常総会を代表会員制度に沿って下記により開催いたします。

総会の案内状は、民法上の社員である、選挙で選出された代表会員および役員に 4 月に郵送いたします。ご欠席の場合には、必ず委任状をご返送ください。

総会の議事議決権は代表会員および役員が有しますが、もちろん代表会員以外の正会員・名誉会員の皆様も、積極的に総会に出席してご発言いただきますようお願いいたします。

記

日 時	平成 17 年 5 月 20 日 (金) 16:00 ~ 18:00
会 場	学士会館 (東京都千代田区神田錦町 3-28)
議 案	1. 平成 16 年度事業報告および決算について 2. 監査報告 3. 平成 17 年度事業計画および予算について 4. 定款の改訂について 5. 会費滞納会員の取扱いについて 6. 名誉会員の推挙について 7. 平成 16 年度功績賞、論文賞、業績賞、研究開発奨励賞の発表と表彰 8. 平成 17 年度役員改選について

※総会終了後、懇親会 (有料予定) を行います。皆さまのご出席をお待ちしております。

会員の広場

Member's Voice

今月の会員の広場では、1月号へのご意見・ご感想を紹介いたします。まず、特集「最新！データマイニング手法」については、多くのご感想とご意見をいただきました。

■特集の「編集にあたって」は、全体を簡潔に俯瞰でき、参考になります。「データマイニング」という言葉の中には、カオスの世界の中から何がしかの規則性、法則性を見出すという、「心ときめく」ものを感じますが、一般的には手の届かない世界という感があります。なにせ、Excelをデータベースツールとして利用する術を知らない人が多いのですから。「情報リテラシー」が言われだして久しいですが、データ群から何を見出したいのか。そのためには、どのようなデータが必要なのか等々のIT以前の「智慧」を磨く必要があるのではと思います。「教育」の視点への検討を痛感します。

(雪野 清)

■今月の特集「最新！データマイニング手法」は、しっかりと勉強をしておくべきものだと感じさせる内容でした。「統計的異常検出3手法」で書かれていた異常の“予兆”を検出するという記述について、この技術が発展すれば便利な場面が多々あるだろうと感じました。

(菅原宏之)

■現在のように計算機がネットワークに接続された環境においては、外部からの侵入や破壊活動のための対策は重要で厄介な問題です。ただし現在は一般家庭で使われるように個人レベルで使用する場合がほとんどを占めていますので、無防備に近い状態と思われる。「統計的異常検出3手法」でご提案のように正統な利用者のログを基にパタンの変化により異常を自動検出できれば、ネットワークセキュリティにおいて大いに期待できる方法であると考えられます。

(匿名希望)

■「統計的異常検出3手法」で述べられているように、統計データに基づいてパタンを認識し、そのパタンから外れた異常をいかに検出するか？という課題は、私が現在携わっている特許の分野（特にビジネスモデルの分野）でしばしば問題になります。たとえば交通機関の混雑度合は、時間帯別に統計をとることによってある程度パタン化できることが多いが、統計値から異常に外れた混雑が生じたときにどのように評価すべきか（事故？イベント開催？）。その意味で、本記事は大いに参考になりました。特に「何か不正なこと」が行われているときの検出には本記事の手法はかなり威力を発揮しそうです。ただ、不正や事故などの単独事象で異常を発生させる場合でなく、複数の事象が重複して突然異常が発生した場合をどのように解釈するか、については依然として頭の痛い

問題となりそうです。

(匿名希望)

■データマイニングという言葉は今や至るところで聞かれ、大体このようなものだろうとある程度理解しているつもりでしたが、今回の特集を読んでデータマイニング手法といっても、こんなにさまざまな手法があるのだなということが分かり、とても勉強になりました。データマイニング手法というのは、時間的やメモリの容量などの制限がある状況において、いかに大量のデータから効率よく必要なデータを引き出すかという問題に対する解決方法だというのが各手法の説明から感じられました。

(片山聡一郎)

■自然言語処理において、どのようにデータマイニング手法が用いられているかを分かりやすく解説していた「自然言語処理におけるマイニング技術の応用」に興味を持った。

(亀井靖高)

■今月号の特集は大変参考になりました。ただ、一般には少し難しかったのではないかと思います。

(小林郁典)

■データマイニングについては、大量に蓄積されたデータから新たな価値を見出す手法として以前から関心はあったが、使用されるデータがテラバイトからペタバイトになり、ますます簡単には手が出しにくくなってきたことを実感した。

(匿名希望)

■「大規模Webアーカイブからのデータマイニング」は、一番興味深い内容でした。たとえば、22世紀や23世紀の社会学や歴史学において21世紀の時代検証を行う場合、このような研究は大きく貢献するのではないかと思います。死後になって初めて高く評価される歴史上の人物はいますが、こういったデータマイニングの研究が進められることによって、従来であれば時代が過ぎれば完全に忘れ去られてしまう人々やコミュニティを発見し再評価することが可能になるのではないのでしょうか。

(匿名希望)

■情報推薦システムを研究しているので、データマイニングの特集は、興味深く読ませていただきました。研究室の学生にも受けが良く、この手の話題は、紙面は少なくとも構いませんが、定期的にあると良いと思いました。

(匿名希望)

■特集記事は各分野を広く扱っていて大変良かった。

(匿名希望)

■具体的な問題と解法がいくつか載っていて、面白かった。自分の研究を進める上で、参考になります。

(匿名希望)

解説「セキュアシステム設計技術—ディベンダビリティの視点から—」につきましては、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■「ディベンダビリティ」という用語を初めて知り、参考になった。情報関連企業の社内教育の1テーマとして「セキュアシステム設計」を取り上げるべきかな、と感じた。

(匿名希望)

■セキュアシステム設計技術における解説記事は非常に役立つ。特にセキュリティ技術の指標特性の相互関係や認証と許諾の関係など、これまで漠然と理解していたものが整理して記述されており、今後セキュリティシステムを検討する上で参考になる。

(匿名希望)

コラム「アジアIT事情：台湾のIT事情」につきましては、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■まだ就職前なのでどうなるかは分かりませんが、将来的にはアジアを中心とした海外勤務を希望しているので参考になりました。
(匿名希望)

■台湾のIT事情が取り上げられていた。次に、韓国の事情も取り上げて欲しい。中でも、韓国のインターネット新聞「オーマイニュース」に興味を持っている。呉社長が5年前設立したネット新聞は、今ではメディアとして韓国で第6位の格付になったという。これからグローバルな展開を進めていく上での情報メディアの役割は大きいであろう。
(匿名希望)

■漢字の文字コード統一問題についても紹介して欲しい。
(水野光明)

コラム「情報技術と教育：情報通信と情報処理」につきましては、以下のようなご意見・ご感想をいただきました

■情報通信と情報処理という文章を見てごもっともだと思いました。確かに普段「情報」という言葉を使っている時には、情報通信としての情報と情報処理としての情報の違いをあまり意識せず、時には混同して考えてしまっていると思いました。(片山聡一郎)

■情報通信と情報処理の相違を理解している人は、多いようで少ないと思います。重要な基本概念の違いについて、今後も取り上げて欲しいと思います。
(水野光明)

その他の記事に関しましては、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■コラム「アメリカITまわりの話題：医療現場の情報化」では、医療現場におけるIT化はアメリカにおいても遅れていることが報告され参考になった。日本の現状についても知りたいと思う。また、医療という分野では、製造業におけるコスト削減や迅速化以外に

も安全性向上や患者の利便性向上など、特有の評価基準が存在するはずだと思うので、その辺りを考慮した記事を載せて欲しい。
(匿名希望)

会誌の内容や今後取り上げて欲しいテーマに関して、以下のご意見やご要望をお寄せいただきました。今後の参考にさせていただきます。

■解説記事「セキュアシステム設計技術」に関連し、セキュリティポリシーの決定方法について取り上げて欲しい。
(匿名希望)

■マルチメディアにおける情報処理の最新動向や、家電など生活を支えるものと情報処理の関係について取り上げて欲しいです。
(片山聡一郎)

■アスペクト指向に関する特集を組んでいただきたい。(亀井靖高)

■プログラムの自動生成の現状について特集をお願いします。
(匿名希望)

■「ITバブルの崩壊」が起こったとされ、IT家電で盛り返すまで、IT関連ではあまり良い話を聞かなかったが、最近、米国のインターネット企業の増収増益の話もあり、その辺の復活と新たな技術的革新の方向性などの話も聞きたい。
(匿名希望)

■インターネットの事件・事故は増加し続けており、また4月からは個人情報保護法が完全施行される。今後安全なインターネット環境を構築・運用するためには何をすべきかについて、技術的観点、また管理的観点から、最新動向を特集していただくようお願いいたします。
(匿名希望)

■IPトレースバックについて最近話題を聞きませんが、現在どうなってるのでしょうか？
(匿名希望)

会誌や掲載記事に関するご意見・ご感想は学会Webページでも受け付けております。今後もよりよい会誌を作るため、ぜひ皆様のお声をお寄せください。

【本欄担当 小幡元樹、望月 源／書評・ニュース分野】

ご意見をお寄せください！！

皆様にとって会誌をより役立つものとするため、自由なご意見、ご感想をお待ちしております。

- ・記事に対する感想、意見
 - ・記事テーマの提案
 - ・会誌または学会に対する全般的な意見、提言
 - ・その他、情報処理技術についての全般的な意見、提言
- なお、「道しるべ」については

<URL : <http://www.ipsj.or.jp/07editj/toukou/michishirube/michishirube.html>>
でこれからのテーマ案を募集しており、いただいたご意見をまとめております。

※ご意見、ご感想を会誌に掲載させていただいた方には薄謝または記念品を呈進いたします。掲載に際しては、編集の都合上、ご意見に手を加えさせていただくことがあります。あらかじめご了承ください。

応募先 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館4F
情報処理学会 会誌編集部門 E-mail:editj@ipsj.or.jp Fax:(03)3518-8375
<http://www.ipsj.or.jp/02moshikomi/enq/enq4604.html>

皆様からいただいた会誌へのご意見は下記Webページにも掲載しております。
<URL : <http://www.ipsj.or.jp/07editj/dokusha/dokusha.html>> (読者からの声)



IPSJ カレンダー

開催日	名 称	論文等応募締切日	参加締切日	開催地
	論文誌「ブロードバンド・ユビキタス・ネットワークとその応用」5月9日(月) 特集論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/06-D.html			
	論文誌「ユビキタス社会におけるコラボレーションサービス」 特集論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/06-C.html	5月20日(金)		
	論文誌「ネットワーク生態学～生命現象から社会経済現象の 新しいパースペクティブ～」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/06-G.html	5月20日(金)		
	論文誌「新たな適用領域を切り開く情報システム」特集への 論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/06-E.html	6月15日(水)		
	論文誌「再考 分散システム/インターネットの運用・管理」 特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/06-H.html	6月24日(金)		
	論文誌「マルチエージェントの理論と応用」 特集論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/06-F.html	8月31日(水)		
4月15日(金)	ITS産業フォーラム http://www.ipsj.or.jp/sig/its/		詳細は高度交通 システム研究会の Webページ参照	横須賀リサーチパーク (予定)
4月23日(土)	第79回コンピュータと教育研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2005/CE79.html		当日のみ	千里金蘭大学
4月25日(月)	北海道支部総会 http://www.ipsj.or.jp/03somu/shibu/tayori/tayori.html			(詳細未定)
4月27日(水)	東北支部総会 http://www.ipsj.or.jp/03somu/shibu/tayori/tayori.html			東北大学工学部
5月10日(火)	第54回数値モデル化と問題解決研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2005/MPS54.html	3月10日(木)	当日のみ	名古屋大学ベンチャー ビジネス・ラボラトリー
5月12日(木)	東海支部総会 http://www.ipsj.or.jp/03somu/shibu/tayori/tayori.html			愛知厚生年金会館
5月12日(木)	北陸支部総会 http://www.ipsj.or.jp/03somu/shibu/tayori/tayori.html			金沢大学工学部 秀峯会館中会議室
5月12日(木)～	第149回コンピュータビジョンとイメージメディア研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2005/CVIM149.html	2月28日(月)	当日のみ	国立情報学研究所
5月13日(金)～	第37回分散システム/インターネット運用技術研究会発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2004/DSM37.html	3月14日(月)	当日のみ	伊勢観光文化会館 (三重県)
5月13日(金)	関西支部総会 http://www.ipsj.or.jp/03somu/shibu/tayori/tayori.html			新阪急ビル
5月13日(金)	中国支部総会 http://www.ipsj.or.jp/03somu/shibu/tayori/tayori.html			広島大学
5月13日(金)	四国支部総会 http://www.ipsj.or.jp/03somu/shibu/tayori/tayori.html			香川大学
5月13日(金)	九州支部総会 http://www.ipsj.or.jp/03somu/shibu/tayori/tayori.html			(詳細未定)
5月18日(水)～	先進的計算基盤システムシンポジウム SACSIS 2005 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2005/SACSIS2005.html	1月17日(月)		つくば国際会議場
5月19日(木)～	第120回システムLSI設計技術研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2005/SLDM120.html	3月17日(木)	当日のみ	高知大学メディアの森 6Fホール
5月19日(木)～	第101回アルゴリズム研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2005/AL101.html	3月18日(金)	当日のみ	九州大学 箱崎キャンパス
5月19日(木)～	第29回コンピュータセキュリティ研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2005/CSEC29.html	3月21日(月)	当日のみ	名古屋大学情報連携 基盤センター
5月19日(木)～	第136回データベースシステム・第79回情報学基礎合同研究 発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2005/DBS136FI79.html	3月22日(火)	当日のみ	東京電力 電気の史料館 ミュージアムホール
5月20日(金)	第119回グラフィクスとCAD研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2005/CG119.html	4月1日(金)	当日のみ	日本大学生産工学部
5月20日(金)	第48回情報処理学会通常総会 http://www.ipsj.or.jp/03somu/rijikai_sohkai/sohkai/soukai2005-tuiyo48.html			学会会館
5月23日(月)	第60回音楽情報科学研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2005/MUS60.html	3月28日(月)	当日のみ	化学会館会議室 (御茶ノ水)
5月25日(水)～	第33回モバイルコンピューティングとユビキタス通信研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2005/MBL33.html	3月16日(水)	当日のみ	化学会館会議室 (御茶ノ水)
5月26日(木)～	第99回システムソフトウェアとオペレーティング・システム 研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2005/OS99.html	3月31日(木)	当日のみ	ホテルムーンビーチ (沖縄)
5月26日(木)～	第167回自然言語処理第56回音声言語情報処理研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2005/NL167SLP56.html	3月18日(金)	当日のみ	東京工科大学
5月26日(木)	第56回グループウェアとネットワークサービス研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2005/GN56.html	3月25日(金)	当日のみ	化学会館会議室 (御茶ノ水)
5月27日(金)	第92回情報システムと社会環境研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2005/IS92.html	2月25日(金)	当日のみ	(社)情報サービス産 業協会会議室
5月27日(金)	第50回デジタル・ドキュメント研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2005/DD50.html	3月18日(金)	当日のみ	トッパン・フォームズ
5月27日(金)	第66回人文科学とコンピュータ研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2005/CH66.html	3月22日(火)	当日のみ	花園大学

開催日	名称	論文等応募締切日	参加締切日	開催地
5月27日(金)	第113回ヒューマンインタフェース研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2005/HI113.html	3月25日(金)	当日のみ	ミューザ川崎 シンフォニーホール
5月30日(月)～ 6月1日(水)	20th IFIP International Information Security Conference (SEC2005) http://www.sec2005.org/	11月15日(月)		幕張メッセ
5月31日(火)	第155回計算機アーキテクチャ研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2005/ARC155.html	3月31日(木)	当日のみ	産業技術総合研究所 臨海副都心センター
6月1日(水)～ 6月2日(木)	第54回プログラミング研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2005/PRO54.html	4月1日(金)	当日のみ	化学会館会議室 (御茶ノ水)
6月2日(木)	第102回ハイパフォーマンスコンピューティング研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2005/HPC102.html	4月15日(金)	当日のみ	千葉工業大学 津田沼キャンパス
6月2日(木)～ 6月3日(金)	第123回マルチメディア通信と分散処理研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2005/DPS123.html	4月8日(金)	当日のみ	宮城大学
6月4日(土)～ 6月5日(日)	第1回エンタテインメントコンピューティング研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2005/EC1.html	4月4日(月)	当日のみ	東京工業大学
6月9日(木)～ 6月10日(金)	第8回ユビキタスコンピューティングシステム研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2005/UBI8.html	3月25日(金)	5月8日(日)	Jeju University (韓国・済州島)
6月16日(木)～ 6月17日(金)	Visual Computing / グラフィクスとCAD 合同シンポジウム http://fuji03.sys.wakayama-u.ac.jp/vc2005/	3月11日(金)		JA長野県ビル会議場
6月17日(金)	連続セミナー 2005 第1回「組み込みソフト基礎と各社の状況」 http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/seminar/2005/index.html		定員になり次第	東京電機大学 神田キャンパス7号館 1F 丹羽ホール
6月17日(金)	第21回高度交通システム研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2005/ITS21.html	4月22日(金)	当日のみ	(株)NTTデータ
7月6日(水)～ 7月8日(金)	マルチメディア, 分散, 協調とモバイル (DICOMO2005) シンポジウム http://www.dicomo.org/	3月15日(火)		ホテル志戸平 (岩手県花巻南温泉)
7月8日(金)	連続セミナー 2005 第2回「組み込み用OSの基礎と応用」 http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/seminar/2005/index.html		定員になり次第	東京電機大学 神田キャンパス7号館 1F 丹羽ホール
8月3日(水)～ 8月5日(金)	2005年並列/分散/協調処理に関する『武雄』 サマー・ワークショップ (SWoPP武雄) http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2005/SWoPP2005.html	4月25日(月)	当日のみ	武雄市文化会館
8月5日(金)	第38回分散システム/インターネット運用技術研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2005/DSM38.html	5月27日(金)	当日のみ	一橋大学 国立キャンパス
8月24日(水)～ 8月26日(金)	DA シンポジウム 2005 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2005/S-DA2005.html	5月9日(月)		遠鉄ホテルエンパイア
9月7日(水)～ 9月9日(金)	FIT2005 第4回情報科学技術フォーラム http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/fit/fit2005/	査読付: 4月28日(木) 一般: 6月3日(金)		中央大学 後楽園キャンパス
9月14日(水)	連続セミナー 2005 第3回「組み込み用LSI」 http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/seminar/2005/index.html		定員になり次第	東京電機大学 神田キャンパス7号館 1F 丹羽ホール
10月7日(金)	連続セミナー 2005 第4回「組み込みソフト開発手法・検証ツール」 http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/seminar/2005/index.html		定員になり次第	東京電機大学 神田キャンパス7号館 1F 丹羽ホール
10月17日(月)～ 10月19日(水)	組込みソフトウェアシンポジウム 2005 (ESS2005) http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2005/S-ESS2005.html	7月15日(金)	定員になり次第	日本科学未来館
11月25日(金)	連続セミナー 2005 第5回「組み込みソフト開発事例(組み込みOS系)」 http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/seminar/2005/index.html		定員になり次第	東京電機大学 神田キャンパス7号館 1F 丹羽ホール
11月28日(月)	連続セミナー 2005 第6回「組み込みソフト開発事例(ユビキタス系)」 http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/seminar/2005/index.html		定員になり次第	東京電機大学 神田キャンパス7号館 1F 丹羽ホール
2006年				
1月23日(月)～ 1月27日(金)	2006年インターネット応用国際会議 (SAINT2006) http://www.saintconference.org/	7月1日(金)		アメリカアリゾナ州 フェニックス
3月7日(火)	日本のコンピュータ生誕50周年記念シンポジウム (学会創立45周年記念イベント) http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/taikai/68kai/50sympo/			工学院大学 新宿キャンパス
3月8日(水)～ 3月10日(金)	第68回全国大会(学会創立45周年記念大会) http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/taikai/68kai/			工学院大学 新宿キャンパス

Web ページ (<http://www.ipsj.or.jp/>) 更新情報

[トピックス]

- 3月15日 人材募集情報(3月)更新しました
- 3月14日 連続セミナー 2005 参加申込受付
- 3月14日 FIT2005 講演申込受付開始

[学会からのお知らせ]

- 3月8日 平成16年度フェロー・学会活動貢献賞のご紹介

人材募集 (有料会告)



有
料
会
告

申込方法: 任意の用紙に件名、申込者氏名、勤務先、職名、住所、電話番号および請求書宛先、Web掲載の有無などを記載し、掲載希望原稿〔募集職種、募集人員、(所属)、専門分野、(担当科目)、応募資格、着任時期、提出書類、応募締切、送付先、照会先〕を添えて下記の申込先へE-mail、Fax または郵送にてお申し込みください。
*都合により編集させていただく場合がありますので、ご了承ください。

申込期限: 毎月15日を締切日とし翌月号(15日発行)に掲載します。

掲載料金: 国公立教育機関、国公立研究機関 21,000円(税込)
賛助会員(企業) 31,500円(〃)
賛助会員以外の企業 52,500円(〃)
*本誌へ掲載依頼いただいた場合に限り、追加料金4,000円で同一内容を本会Webページに掲載できます。

申込先: 情報処理学会 会誌編集部(有料会告係) E-mail:editj@ipsj.or.jp Fax(03)3518-8375
*原稿受付の際には必ず原稿受領のお知らせを差し上げています。もし返信がない場合は念のため確認のご連絡をください。
*人材募集広告は会誌と同時にオーム社発行月刊誌「コンピュータ&ネットワークLAN」にも掲載されます(料金の追加はありません)。ただしオーム社側の掲載については字数などの関係から大幅に編集されることをご了承ください。

*特に指定がないかぎり履歴書には写真を貼付のこと

■静岡大学情報学部情報科学科

募集人員 助教授または講師 1名
所属 情報科学講座
応募資格 博士の学位を有する方、またはそれと同等以上の業績を有する方。情報システム・情報科学の研究分野において卓越した研究業績を有する方。情報科学(特に情報数理に関する教育)を担当できる方。大学院の教育および研究指導を担当できる方。専門分野に関する基礎数学・全学共通教育を担当できる方
着任時期 平成17年10月1日以降のできるだけ早い時期
提出書類 履歴書、研究業績リスト、主要論文別刷(コピー可)、最近10年以内の研究活動および研究費獲得実績などを示す書類、教育・研究・運営・社会貢献に関する抱負(2000字程度)、提出者に関する所見を求め得る2名の方の氏名・連絡先・電話番号
応募締切 平成17年5月10日(必着)
送付先 〒432-8011 静岡県浜松市城北3-5-1 静岡大学情報学部長 「情報科学講座教員募集関係書類」と朱書し簡易書留
照会先 情報科学科 梅谷征雄 E-mail:umetani@cs.inf.shizuoka.ac.jp
その他 本学科の構成・研究内容・教育内容などについては、学部Webページ(<http://www.inf.shizuoka.ac.jp/>)をご覧ください

■大阪工業大学情報科学部

募集人員 (1)教授または助教授 各学科 1名 計2名 (2)教授または助教授 1名 (3)教授または助教授 1名
所属 (1)情報科学科および情報メディア学科(数学) (2)情報メディア学科(専門教育) (3)情報メディア学科(専門教育)
専門分野 (1)数学を主専攻とし、情報、または物理、工学のいずれかを副専攻としたダブルメジャーが望ましい (2)情報メディア記述、情報メディア処理、情報メディアシステム関連分野 (3)ヒューマンインタフェース、感性情報処理、情報メディア処理関連分野
担当科目 それぞれ次の(A)(B)の条件を満たすこと
(1)(A)微積分学、情報数学、離散数学(データ構造とアルゴリズム)、線形数学、確率統計などの中から3科目以上、および関連演習科目、情報科学の卒業研究を担当できること (B)大学院では、「情報基礎領域」関係科目の講義および研究指導を担当できることが望ましい
(2)(A)学部教育では次の講義科目2科目以上、および関連演習科目、ならびに卒業研究を担当できること—— 構造化文書処理・記述言語、電子化文書処理、メディアデータ論、メディア工学概論、情報メディア演習 (B)大学院では、「情報メディア領域、または情報システム領域、ソフトウェア領域、計算機工学領域」のいずれかにおいて教育・研究指導ができること
(3)(A)学部教育では次の講義科目2科目以上、および関連演習科目、ならびに卒業研究を担当できること—— ヒューマンインタフェース、感性情報処理、メディア工学概論、情報メディア演習 (B)大学院では、「情報メディア領域、または情報システム領域」の教育・研究指導ができること
応募資格 博士の学位を有する方、年齢は35~50歳程度
着任時期 平成18年4月1日
提出書類 履歴書(本学所定用紙)、業績書(本学所定様式)、著書・論文(主要3点以内、コピー可)、論述(1000字以内、A4用紙1枚、様式任意、テーマは次の通りで担当可能科目を末尾に列挙すること [論述テーマ] (1)数学担当は、「情報科学教育の中の数学教育について」で、なるべく計算機との関連に触れて書くこと (2)、(3)専門教育担当は、「教育を充実させるために実践してきた具体的事項」「就任後の教育に対する抱負」のいずれか1つを選択)、健康診断書(本学所定の様式または診断項目を充足している国公立病院、保健所など発行のもの)
応募締切 平成17年5月13日(必着)
送付先 〒573-0196 大阪府枚方市北山1-79-1 大阪工業大学 情報科学部長 「情報科学部教員公募関係(専門分野○○○)」と朱書し郵送の場合は書留
照会先 情報科学部事務室 E-mail:jyo-jimu@ofc.oit.ac.jp Tel(072)866-5301 Fax(072)866-8302
その他 用紙および様式は、大学のWebページ(<http://www.oit.ac.jp/>)からダウンロードしてください

■富山工業高等専門学校電気工学科

募集人員 助手 1名
専門分野 情報工学または教育担当分野（コンピュータシステム、ネットワーク技術、プログラミング、機器制御、データ解析などの基礎（実習、実験、卒研を含む））にふさわしい研究分野
応募資格 30歳くらいまでの着任時に学位を有する方、教育・研究・学生指導および校内情報処理システム充実に熱意のある方
着任時期 平成17年10月1日までの早い時期
提出書類 履歴書、著書・論文など一覧表、主要研究業績別刷（5編以内、コピー可）、主要業績についての日本語の概要（A4用紙2枚以内）、教育・研究に対する抱負（A4用紙1枚以内）、推薦書（または所見を伺える方の連絡先など）
応募締切 平成17年5月31日（必着）
送付先 〒939-8630 富山県富山市本郷町13 富山工業高等専門学校 庶務課人事係
Tel(076)493-5491 Fax(076)492-3859 「電気工学科教員応募書類在中」と朱書き簡易書留 *応募書類は返却いたしません
照会先 電気工学科 教授 角 俊雄 E-mail:tsuno@toyama-nct.ac.jp Tel(076)493-5416（直通）
その他 詳細はWebページをご覧ください <http://www.toyama-nct.ac.jp/tncet/kobo/kobo16.html>

■(独)理化学研究所

募集人員 基礎科学特別研究員 70名程度
専門分野 物理学、化学、生物科学、医科学、工学の各分野で、理化学研究所で実施可能な研究
応募資格 平成18年4月1日現在35歳未満で、自然科学の博士号取得者またはこれと同等の能力を有すると認められる方
*日本国に永住権を有さない外国人にあつては、上記に加え次の条件を満たす方
(1)応募日現在日本国に在住している方 (2)日本国の大学院博士課程を修了（見込み含む）し、博士号を取得（見込み含む）の方
着任時期 平成18年4月1日
応募方法 応募要項頒布（4月上旬開始予定） 応募要項の請求は、上記FaxまたはE-mailへ (1)郵便番号 (2)住所 (3)氏名（漢字）(4)氏名（カタカナ）を記入し、送信すること *要項代は無料
応募締切 平成17年5月31日（必着）
送付先 〒351-0198 埼玉県和光市広沢2-1 (独)理化学研究所研究調整部研究交流課 基礎科学特別研究員担当
E-mail:wakate@riken.jp Tel(048)467-9268（直通） Fax(048)463-3687
その他 (独)理化学研究所は、我が国の基礎研究を強力に推進するため、平成18年度の基礎科学特別研究員を募集します。斬新な研究課題を自主的に遂行できる若い研究者の応募を期待します 【待遇など（平成16年度実績）】 (1)謝金…月額48万7千円（社会保険料、税込）(2)通勤費…実費（上限4万5千円/月）(3)住宅費…家賃の一部支給 (4)研究費…130万円/年 【契約期間】連続して最長3年間を限度とし、毎年度所要の評価により契約更新
*本件は当研究所予算の成立を前提としており、その事情により変更になる場合があります

■国際基督教大学教養学部理学科

募集人員 助教授、準教授または教授 1名
所属 情報科学教室
専門分野 コンピュータ科学
担当科目 情報基礎教育科目、理学科専門科目および大学院理学研究科数理科学専攻科目
応募資格 Ph.D.（博士号）を有する方、日本語あるいは英語で講義ができ、日本語および英語で会議などに参加できる方、キリスト教徒
着任時期 平成18年4月1日
提出書類 履歴書（日本語によるもの1通、英語によるもの1通）、業績リスト（主要な業績別刷5編以内、コピー可）、4名の推薦者名および推薦者連絡先（うち1名は所属教会の牧師またはこれに準ずる方であること）
応募締切 平成17年6月10日
送付先 〒181-8585 東京都三鷹市大沢3-10-2 国際基督教大学教養学部理学科 科長 鈴木 寛 封筒の表に「理学科教員応募書類（情報科学）」と明記 *応募書類は返却いたしません
照会先 E-mail:cs-recruit@icu.ac.jp Fax(0422)33-1449
その他 大学の詳細については<http://www.icu.ac.jp>、理学科および理学研究科については<http://science.icu.ac.jp>をご覧ください



■鹿児島工業高等専門学校情報工学科

募集人員 助教授 1名
 専門分野 通信工学, 情報通信ネットワーク
 担当科目 本科の電子回路, 通信工学, 電気通信特論や, 専攻科の電気通信工学, ネットワークシステム構成論, および本科卒業研究, 専攻科特別研究など
 応募資格 本科および専攻科の教育・研究と学生指導に熱意を持ち, 心身ともに健康で明朗な方, 博士の学位を有する方, 40歳程度の方(平成17年10月1日現在)
 着任時期 平成17年10月1日
 提出書類 履歴書(市販の様式を使用, ワープロ可), 研究業績一覧(論文, 著書, 国際会議発表, 特許など), 主要論文別刷(3編以上, コピー可), 推薦書(応募者に関する所見を述べる可以由るもの), 高専着任後の教育・学生指導および研究に関する抱負(A4用紙1枚程度)
 応募締切 平成17年6月20日(必着)
 送付先 〒899-5193 鹿児島県始良郡隼人町真孝1460-1 鹿児島工業高等専門学校庶務課人事係 Tel(0995)42-9005 「情報工学科教員応募書類在中」と朱書し書留
 照会先 情報工学科 学科長 加治佐清光 E-mail:kajisa@kagoshima-ct.ac.jp Tel(0995)42-9130
 その他 【選考方法】第一次選考:書類審査 第二次選考:面接(宿泊, 交通費は自己負担)

■九州大学大学院システム情報科学研究院

募集人員 教授 1名
 所属 知能システム学部門認知科学講座
 専門分野 (1)人間の知的機能を認知科学的に分析し, 機械システムに応用するための知能処理, 情報認識, メディア情報処理などの知能システム学分野 (2)人の認知・行動システム, 感性情報処理, 次世代ヒューマンインタフェースなど, 人文科学・社会科学との学際領域における応用研究分野
 応募資格 (1)博士の学位を有する方 (2)上記の専門分野において卓越した研究業績を有する方 (3)大学院博士課程を担当できる方 (4)学部教育(電気情報工学に関する教育)を担当できる方
 着任時期 平成18年1月以降4月1日までに着任のこと
 提出書類 履歴書, 研究歴(業績リスト, 受賞歴, 学会活動など), 教育経験がある場合はその概略, 主要論文別刷(5編程度, コピー可), 最近10年以内の研究開発活動の概略(自分の果たした役割を明示)を示した書類(科学研究費をはじめとする省庁・地方公共団体・研究助成財団・民間企業からの研究費獲得による研究活動, 企業内開発プロジェクト活動, システム開発実績など), 研究・教育に関する抱負(2000字程度), 応募者に関する所見を求め得る2名の方の氏名・連絡先・電話番号
 応募締切 平成17年6月30日(必着)
 送付先 〒812-8581 福岡県福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学大学院システム情報科学研究院知能システム学部門 部門長 迫江博昭
 *提出書類は原則としてお返しできません
 照会先 知能システム学部門 長谷川勉 E-mail:hasegawa@irvs.is.kyushu-u.ac.jp Tel(092)642-4063

■東京農工大学大学院工学府情報コミュニケーション工学専攻

募集人員 助教授 1名
 専門分野 (A)データ工学, データマイニング (B)ソフトウェア工学 (C)システム工学, システムセキュリティ (D)ユビキタスコンピューティング, ならびにこれらに関連した新規分野
 応募資格 博士の学位を有し, 上記いずれかの分野の研究指導および講義科目担当が可能なこと, 教育に熱意があり, 実験・演習にも積極的な方
 着任時期 決定後, 早い時期に着任可能なことが望ましい
 提出書類 履歴書, 研究業績リスト(学術誌論文, 国際会議論文, 著書・解説, その他, に分けて記載), 主要論文別刷(5編程度, コピー可), 教育研究の抱負(2000字程度), 応募者についての照会先となる2名の氏名・連絡先
 応募締切 平成17年6月30日(ただしこれ以後でも候補者未決定の場合は受理)
 送付先 〒184-8588 東京都小金井市中町2-24-16 東京農工大学大学院工学府情報コミュニケーション工学専攻 藤田欣也
 E-mail:kfujita@cc.tuat.ac.jp Tel(042)388-7142 「教員応募書類」と朱書し(簡易)書留 *応募書類は返却いたしません

■八代工業高等専門学校情報電子工学科

募集人員	助手 1名
専門分野	情報工学, ソフトウェア工学, 情報通信工学の関連分野
担当科目	情報関連の実験や演習など。将来は専門分野関係の講義を担当できる方
応募資格	博士の学位を有する方か平成18年3月までに取得可能な方, 年齢は採用時で30歳まで, 高専の教育に理解と熱意を持ち学術研究に強い意欲のある方
着任時期	平成17年10月1日
提出書類	履歴書 (Eメールアドレスを連絡先に記入), 研究業績リストおよび研究履歴, 主要論文別刷 (5編程度, コピー可), 高専教育に関する抱負 (A4用紙1枚程度), 今後の研究展開と抱負 (A4用紙1枚程度), 推薦書1通 (推薦書がない場合は応募者に対して意見を求めることができる方の氏名・所属・連絡先・応募者との関係, を記すこと)
応募締切	平成17年6月30日 (必着)
送付先	〒866-8501 熊本県八代市平山新町2627 八代工業高等専門学校 人事委員会委員長 「教員選考応募書類在中」と朱書き書留 *応募書類は原則として返却いたしません
照会先	情報電子工学科長 井上 勲 Email: iinoue@as.yatsushiro-nct.ac.jp Tel(0965)53-1313 Fax(0965)53-1319
その他	【選考方法】 第一次選考:書類審査 第二次選考:面接審査 (8月上旬の予定, 面接に伴う旅費などは応募者の負担となります) 詳細は http://www.yatsushiro-nct.ac.jp/ を参照のこと

■東京電力(株)(募集代行(株)キャリアライズ)

募集人員	正社員 1名
所属	東京電力(株)電子通信部
業務内容	IP (インターネットプロトコル)関連機器の運用保守などにかかわるオペレーション業務, およびセキュリティ対策の立案・実行, 社内における技術力向上のための指導的役割
応募資格	大学卒または専門学校卒以上, 30~40歳代前半の方 (当該層の不足によるもので, メーカー・通信事業者・プロバイダなどにおいて, IPネットワークの開発および運用業務を通じたセキュリティ確保にかかわる実務経験を5年以上有する方) ○保有が望ましい資格・・・情報セキュリティアドミニストレータ, テクニカルエンジニア (ネットワーク), システム監査技術者, シスコ関連資格 (プロフェッショナルクラス・エキスパートクラス) その他, 心身ともに健康で性格が明るい方, 同僚と協調性を持って業務を進めていただける方, 実作業や宿泊を伴う業務への対応をいとわない方
応募方法	履歴書, 職務経歴書 (書式自由) を下記送付先まで送付ください。応募の秘密は厳守いたします
応募締切	定員になり次第
送付先	〒104-0031 東京都中央区京橋1-8-7京橋日殖ビル4F (株)キャリアライズ 紹介事業部 「ご覧の雑誌名」募集デスク E-mail: saiyo@career-rise.co.jp Tel(03)4284-6317 http://www.career-rise.co.jp *応募書類は返却いたしません
その他	【勤務地】東京電力(株)本店 (東京都千代田区内幸町1-1-3) 【勤務時間】8:40~17:20 (休憩12:00~13:00) 【休日】完全週休2日制 (土日), 祝日, 労働祭 (5/1), 夏期休暇, 年末年始, 有給休暇, 特別休暇, 育児・介護休職制度など 【給与】経験・能力など考慮の上, 社内規定により優遇 【待遇など】賞与年2回, 昇給年1回, 社会保険 (健保, 雇用, 厚生, 労災), 持ち家財形・融資制度, 退職年金制度, 各種貸付制度, 社宅, 厚生施設など

日本のコンピュータ生誕 50 周年記念シンポジウム
(情報処理学会 創立 45 周年記念)
「50 年後の情報科学技術をめざして」記念論文募集

1960 年の創立後、発展を続ける情報処理分野で一貫して指導的役割を果たしてきた情報処理学会は、2005 年 4 月をもって創立 45 周年を迎えることとなりました。日本初の電子計算機(FUJIC,ETL Mark III) が誕生したのは 1956 年ですから、情報処理学会 45 周年は、日本の電子計算機が数え年で 50 歳を迎える記念すべき年にも当たります。この半世紀の間に、コンピュータ技術とネットワーク技術は比類のない進歩と広がりを見せました。巨大な産業が生まれ、猛烈なスピードで小型化・高速化・高機能化が進んでいます。わが国のコンピュータ技術は、スーパーコンピュータからゲーム端末や携帯電話までの幅広い領域で世界をリードしています。また、サービスとしての IT 産業も大変活発で、携帯電話向けのモバイルインターネットサービスでは世界で最も進んだサービスを提供しています。

こうした情報科学技術が、これから物質・環境・生命・医療などの先端科学技術と連携しながらさらに発展するためには、情報科学技術に関する長期的な視野とそれに向かうための短期的なロードマップが不可欠です。

そこで、情報処理学会では 45 周年を記念して、「50 年後の情報科学技術をめざして」というテーマのもとでの記念論文を募集することとしました。例えば、次のような課題のうちのいずれかについて論じることが考えられますが、投稿者の創意によって、全く新たな視点から議論を進めていただくことも大いに歓迎します。

- ・ 50 年後の人間社会がどの方向に進むか、そのなかで情報科学技術がどのような役割を果たすべきかについて論じる。
- ・ 50 年後の情報科学技術の萌芽となる理論や技術を示し、そのマイルストーンとなる重要課題を示す。
- ・ 人類に夢や幸福をもたらす情報科学技術のあり方を提案する。
- ・ 現在の情報科学技術のもつ課題について論じ、それを踏まえた情報教育のあり方を提案する。

投稿の詳細は、以下の応募要領の通りです。奮ってご応募ください。

【募集要領】

1. 対象 : 制限はありません。誰でも応募できます。
2. 論文の様式 : 日本語または英語で A4 で 10~20 ページ程度。1 ページ 1000 字程度 (英語の場合は 400words 程度) とします。
3. 論文投稿方法 : 印刷された論文または論文 PDF 版を情報処理学会事務局に送付してください。事務局からの受付通知をもって受け付けたものとします。
なお、論文投稿の際はカバーシート (表紙) をつけてください。
*カバーシートはテキストファイルで作成してください。
*カバーシートは原稿の分量に含めません。
<カバーシートの形式>
 - ・ 標題
 - ・ 著者名
 - ・ 論文概要(500 字程度)
 - ・ 著者連絡先 (勤務先、所属、郵便番号、住所、所属機関、電話、FAX、e-mail)
4. 論文投稿期限 : 平成 17 年 9 月 1 日 (木) (必着)
5. 入賞論文 : 最優秀論文 1 件、優秀論文数件を選定します。最優秀論文には賞金 20 万円、優秀論文には賞金 5 万円を贈呈し、その内容を情報処理学会誌に掲載します。
6. 入賞論文の発表と表彰 : 入賞論文は、「日本のコンピュータ生誕 50 周年記念シンポジウム」(平成 18 年 3 月 7 日 (火)) で発表し、表彰します。
7. 注意事項 : 投稿論文の内容は著者が最終責任を負えるものとし、著作権上問題のある論文の投稿や重複投稿はご遠慮ください。投稿論文は返却いたしません。入賞論文の著作権は当学会に帰属します。
8. 論文投稿・照会先 : 社団法人情報処理学会事業部門 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F
TEL.03-3518-8373 (事業部門直通) FAX.03-3518-8375 e-mail: jigyo@ipsj.or.jp

ホームページ : <http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/taikai/68kai/50sympo/cfp.html>

**FIT2005 (第4回情報科学技術フォーラム)
講演募集案内**

【会期】2005年9月7日(水)～9日(金)
【会場】中央大学後楽園キャンパス
(東京都文京区春日 1-13-27)

FIT2005 ホームページ
<http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/fit/fit2005/>

情報処理学会(IPSJ)と電子情報通信学会 情報・システムソサイエティ(ISS)並びにヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)は、2002年から合同で毎年秋季に、「情報科学技術フォーラム(FIT:Forum on Information Technology)」を開催しており、2005年9月には第4回目を中央大学 後楽園キャンパスで開催します。

本フォーラムは、IPSJ 全国大会と ISS ソサイエティ大会の流れを汲むものですが、従来の大会の形式にとらわれず、新しい発表形式を導入し、タイムリーな情報発信、活気ある議論・討論、多彩な企画、他分野研究者との交流、などを実現してきており、前回の FIT2004 では 836 件の論文発表が行われました。

皆様の研究成果発表の場として、標記のとおり論文発表を募集致しますので奮って御応募下さい。

また FIT の特徴の一つは、**船井ベストペーパー賞、FIT 論文賞、ヤングリサーチャー賞**からなるその論文表彰制度にあり、以下のようにまとめられます。皆様、是非ともチャレンジして下さい。

船井ベストペーパー賞	査読付き論文の中から、FIT 学術賞選定委員会での論文審査と船井ベストペーパー賞選考会での発表審査に基づき 3 件 選ばれます。賞金は 20 万円 です。
FIT 論文賞	査読付き論文の中から、FIT 学術賞選定委員会での論文審査と船井ベストペーパー賞選考会での発表審査に基づき 7 件程度 が選ばれます。賞金は 5 万円 です。
ヤングリサーチャー賞	2005年12月31日現在で33歳未満の講演者(査読付き論文および一般論文)の中から、特に優れた発表をされた方、20名程度が選ばれます。賞金は 3 万円 です。

【講演募集内容】

最近行った研究及び調査の報告、または成果を挙げた新しい企画及び試験結果の報告、新製品の紹介等で、学術的に価値のある未発表のものに限ります。

論文の種類には、査読付き論文と一般論文があります。

査読付き論文

査読付き論文は、FIT 設立に伴い新たに導入された企画です。採録論文は「**情報科学技術レターズ(Information Technology Letters)**」として独立した講演論文集に掲載します。査読者や読者に研究内容が十分に伝わるように、最大 4 ページに緩和された論文ページ数を活用して下さい。査読付き論文に投稿されて不採録となった場合には、一般論文として扱います。

一般論文

論文ページ数・講演時間は、査読付き論文と同じですが、査読を行わない分、投稿メ切が 2 か月程度遅くなります。

※なお、査読付き論文の募集を行わず一般論文のみの募集となる分野があります。詳しくは「応募分野」の項を御覧下さい。

【募集分野】

以下の15の分野で論文の募集を行います。なお論文募集、査読付き論文の査読などは、情報処理学会の研究会と電子情報通信学会(情報・システムソサイエティ、ヒューマンコミュニケーショングループ(研究グループと時限研究会を含む))で進めます。各分野に対応する研究会は以下のようになります。

なお、☆は情報処理学会、※は電子情報通信学会情報・システムソサイエティ、◇は電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループを示します。

B: ソフトウェア、M: ユビキタス・マルチメディア・セキュリティは査読付き論文の募集は行わず一般論文のみの募集となりますので御注意下さい。

- A:モデル・アルゴリズム・プログラミング
 - A-1 ☆アルゴリズム(AL)
 - A-2 ☆数理モデル化と問題解決(MPS)
 - A-3 ☆プログラミング(PRO)
 - A-4 ※コンピューテーション(COMP)
- B:ソフトウェア(一般論文のみ)
 - B-1 ☆ソフトウェア工学(SE)
 - B-2 ☆ハイパフォーマンスコンピューティング(HPC)
 - B-3 ☆システムソフトウェアとオペレーティング・システム(OS)
 - B-4 ☆デジタル・ドキュメント(DD)
 - B-5 ※ソフトウェアサイエンス(SS)
 - B-6 ※知能ソフトウェア工学(KBSE)
- C:アーキテクチャ・ハードウェア
 - C-1 ☆計算機アーキテクチャ(ARC)
 - C-2 ☆システム LSI 設計技術(SLDM)
 - C-3 ※コンピュータシステム(CPSY)
 - C-4 ※ディペンダブルコンピューティング(DC)
 - C-5 ※リコンフィギャラブルシステム(RECONF)
- D:データベース
 - D-1 ☆データベースシステム(DBS)
 - D-2 ☆情報学基礎(FI)
 - D-3 ※データ工学(DE)
- E:自然言語
 - E-1 ☆自然言語処理(NL)
 - E-2 ※言語理解とコミュニケーション(NLC)
- F:人工知能・ゲーム
 - F-1 ☆知能と複雑系(ICS)
 - F-2 ☆ゲーム情報学(GI)
 - F-3 ※人工知能と知識処理(AI)
 - F-4 ※情報論的学習理論(IBIS-TG)
 - F-5 ※ ネットワーク・ロボット(NR-TG)
- G:音声・音楽
 - G-1 ☆音声言語情報処理(SLP)
 - G-2 ☆音楽情報科学(MUS)
 - G-3 ※音声(SP)
- H:生体情報科学
 - H-1 ☆バイオ情報学(BIO)
 - H-2 ※ニューロコンピューティング(NC)
 - H-3 ※ME とバイオサイバネティクス(MBE)
 - H-4 ※医用画像(MI)
- I:画像認識・メディア理解
 - I-1 ☆コンピュータビジョンとイメージメディア(CVIM)
 - I-2 ※パターン認識・メディア理解(PRMU)
- J:グラフィクス・画像
 - J-1 ☆グラフィクスと CAD(CG)
 - J-2 ☆オーディオビジュアル複合情報処理(AVM)
 - J-3 ☆エンターテインメントコンピューティング(EC)
 - J-4 ※画像工学(IE)

- K:ヒューマンコミュニケーション&インタラクション
 - K-1 ☆ヒューマンインタフェース(HI)
 - K-2 ◇ヒューマンコミュニケーション基礎(HCS)
 - K-3 ◇ヒューマン情報処理(HIP)
 - K-4 ◇マルチメディア・仮想環境基礎(MVE)
 - K-5 ◇福祉情報工学(WIT)
 - K-6 ※教育工学(ET)
 - K-7 ※異文化コラボレーション(SIGIC)
 - K-8 ※サイバーワールド(CW)
- L:ネットワークコンピューティング
 - L-1 ☆分散システム/インターネット運用技術(DSM)
 - L-2 ☆高品質インターネット(QAI)
 - L-3 ☆グループウェアとネットワークサービス(GN)
 - L-4 ☆モバイルコンピューティングとユビキタス通信(MBL)
 - L-5 ☆高度交通システム(ITS)
 - L-6 ※インターネット(IRC-TG)
- M:ユビキタス・マルチメディア・セキュリティ(一般論文のみ)
 - M-1 ☆ユビキタスコンピューティングシステム(UBI)
 - M-2 ☆マルチメディア通信と分散処理(DPS)
 - M-3 ☆コンピュータセキュリティ(CSEC)
- N:教育・人文科学
 - N-1 ☆コンピュータと教育(CE)
 - N-2 ☆人文科学とコンピュータ(CH)
 - N-3 ☆電子化知的財産・社会基盤(EIP)
- O:情報システム
 - O-1 ☆情報システムと社会環境(IS)
 - O-2 ☆システム評価(EVA)
 - O-3 ※オフィスインフォメーションシステム(OIS)
 - O-4 ※ソフトウェアインタプライズモデリング(SWIM)

【論文ページ数・講演時間】

論文ページ数は査読付き論文、一般論文とも2~4ページです。なお、3ページ目以降はエキストラページとなります。
 論文ページ数：2~4ページ
 講演時間：1件20分(発表時間15分、質疑時間5分)

【使用言語】

日本語または英語

【講演使用機器】

査読付き論文、一般論文とも、PCプロジェクターとします。

【申込主要日程】

査読付き論文

- [登録申込/投稿受付開始]
平成17年3月14日(月)
- [登録申込〆切り/査読用原稿の投稿〆切り]
平成17年4月28日(木) 19:00
- [査読の採否結果通知]
平成17年6月20日(月)
- [カメラレディ投稿〆切り]
平成17年7月8日(金) 19:00

一般論文

- [登録申込/投稿受付開始]
平成17年3月14日(月)
- [登録申込〆切り]
平成17年6月3日(金) 19:00
- [カメラレディ投稿〆切り]
平成17年7月8日(金) 19:00

【申込みの方法、注意事項】

講演申込み及び論文原稿投稿は Web ページから電子的

に受け付けます。詳細は追って標記の FIT2005 ホームページへ掲載致しますので御確認下さい。

一人が複数の発表を行うことを認めます。ただし、内容が極めて類似したものを数件にわたって発表することはできません。なお、会場数、会期日数など制約によりプログラム編成上、講演部門の変更を行うこともございますので予めご了承下さい。

【講演者の資格】

講演者の資格は以下のとおりです。

会 員	情報処理学会、電子情報通信学会、電気学会、照明学会、映像情報メディア学会及び電子情報通信学会と協定を締結した海外の学会(大韓電子工学会、IEEE/Com. Soc., IEEE/LEOS, IEEE/EDS, IEEE/CS)または情報処理学会と協定を締結した海外の学会(ACM, IEEE, IEEE/CS, KISS, CSI)の個人会員に限りません。
非会員	上記の学会会員以外の方。

【講演参加費(税込み)】

講演参加費は、発表料、論文集 CD-ROM、プログラム、参加章の代金を含みます。なお、CD-ROMは FIT 開催前に講演者の方に送付しますが、プログラム、参加章は会場でお引き渡しとなります。

また、登録申込み〆切後、講演の取消しをされても講演参加費等お申込内容にもとづく費用につきましてはお支払いを頂くこととなりますのでご注意ください。

正会員	10,000 円
学生会員	6,000 円
一般非会員(社会人)	20,000 円
学生非会員	12,000 円

【エキストラページ費用(税込み)】

エキストラ ページを利用された場合には、講演参加費にプラスして以下の費用を頂きます。

エキストラページ費：3,000 円/ページ

【別刷代(査読付き論文の採録者のみ)(税込み)】

査読付き論文に採録された方には論文の別刷(100部)をご購入頂きます。別刷代は、エキストラページの有無にかかわらず以下のとおりです。

別刷代：20,000 円

【講演者予稿分冊頒布】

講演者には、御自身の論文が掲載されている講演論文集を1部に限り、6,000 円で、講演申込み時に同時受付致します。御希望の方は講演申込書の「講演論文集を希望する」にチェックをお願いします。

なお、講演論文集の一般販売は、個人購入の場合 1部 10,000 円、団体購入の場合 15,000 円となります。

【最新情報確認のお願い】

FIT2005 に関する最新情報は、標記の FIT2005 ホームページへ逐一掲載してまいりますので御確認をお願い致します。

◆◆ 有料会告について ◆◆

本会の主催・共催行事および協賛・後援記事の次第書（論文募集、参加案内等）の本誌掲載については、下記により有料にて取り扱っていますのでお知らせします。

記

■掲載条件

件名	内容	掲載単位	掲載料金（消費税込）	
論文募集／ 参加者募集	国際会議、シンポジウム、ワークショップ、講演会、講習会などの論文募集・参加者募集	1 ページ、1/2 ページまたは 1/4 ページ	(主催・共催)	
			1 ページ	52,500 円
			1/2 ページ	31,500 円
			1/4 ページ	21,000 円
			(協賛)	
広告として取り扱う				
人材募集	国公立教育機関、国公立研究機関、 企業の人材募集	10 行程度	国公立教育機関、国公立研究機関	21,000 円
			賛助会員（企業）	31,500 円
			賛助会員以外の企業	52,500 円
* 本会誌へ掲載依頼いただいた場合に限り、追加料金 4,000 円で同一内容を本会 Web ページに掲載できます。				

■申込方法 任意の用紙に、件名、申込者氏名、勤務先、職名、住所、電話番号および請求書宛先、Web 掲載の有無（人材募集のみ）などを記載し、掲載希望原稿を添えて下記の申込先へお申し込みください。

■原稿の書き方

- 行事次第書： A4 判カメラレディまたは PDF ファイル（フォント埋め込み）とします。
 (1 ページ) 天地 260mm × 左右 175mm
 (1/2 ページ) 天地 130mm × 左右 175mm
 (1/4 ページ) 天地 65mm × 左右 175mm
 * A4 判以外の原稿は縮小または拡大となりますのでご注意ください。

- 人材募集： 次の項目を明記し、E-mail または Fax、郵送にてお送りください。
 [募集職種、募集人員、(所属)、専門分野、(担当科目)、応募資格、着任時期、提出書類、応募締切、送付先、照会先]
 * なお、都合により編集させていただく場合がありますので、ご了承ください。

■申込期限 毎月 15 日を締切日とし、翌月号（15 日発行）に掲載します。

■掲載料金 掲載号発行日に料金を請求いたしますので、3 カ月以内にお支払いください。

■掲載申込先 (社) 情報処理学会 会誌編集部門 (有料会告係)
 〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F
 E-mail: editj@ipsj.or.jp Tel (03) 3518-8371 Fax (03) 3518-8375

書評・会議レポート募集のお知らせ

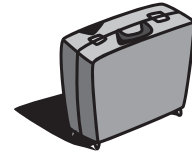
情報処理学会会誌編集委員会では、会誌「情報処理」に掲載する書評、および会議レポートを広く会員の皆さまから募集しています。

1. 募集対象 次の2種類の記事について、原稿を募集します。

- 書評：過去2年間に出版された、本学会員にとって有益な図書についての紹介もしくは批評。
- 会議レポート：情報処理に関する国際規模の会議・大会の報告など、時事性が高く、本学会員に広く知らせる価値のある話題。

2. 応募資格

原則として本学会員に限ります。



3. 応募の手続き

- 表題：書評の場合は、著者名、書名、ページ数、発行所、発行年、価格、ISBNを書く。
会議レポートは、見出しを書く。書評、会議レポートの別を左肩に書く。
- 評者名（会議レポートの場合は筆者名）・所属・評者連絡先（住所、E-mail、Faxなど）の記載を忘れずに。
- 本文：書評、会議レポートとも2,100字前後で書く。
- （必要であれば）参考文献、付録、図、表をつける。
詳しくは「原稿執筆案内」（<http://www.ipsj.or.jp/07editj/toukou/shippitsu/kaishi.html>）を参照してください。

4. 原稿の取扱い

投稿された原稿は会誌編集委員会で審査し、採否を決定します。採用にあたっては原稿の修正をお願いすることがあります。あらかじめご了承ください。

5. 照会／応募先 （社）情報処理学会 会誌編集部門 E-mail:editj@ipsj.or.jp

情報処理学会からののお知らせ

情報処理学会電子図書館は BookPark に移行しました

まずはユーザ登録を！

<http://www.bookpark.ne.jp/ipsj/>

BookParkに情報処理学会発行の出版物(会誌、論文誌、研究報告、欧文誌、英文誌)が載りました。創刊号から最新号まですべてのデータを収蔵。

情報処理学会会員の方は、無料*で閲覧することができます。

*BookParkで新たにユーザ登録を行っていただく必要があります。

*該当する出版物を購読されている方に限ります。また、会員の方でも会費や購読費が未納の場合、有料となる場合があります。

一般の方でも1編から購入することができますので、ぜひご利用ください。



ITText 一般教育シリーズ
情報とコンピューティング

河村一樹 編著
A5判/218頁/本体2,500円(税別)

ITText 一般教育シリーズ
情報と社会

駒谷昇一 編著
A5判/220頁/本体2,500円(税別)



好評既刊書

ITText コンパイラとバーチャルマシン

今城哲二・布広永示・岩澤京子・千葉雄司 共著
A5判/212頁/本体2,800円(税別)

ITText コンピュータグラフィックス

魏 大名・Carl Vilbrandt・Roman Durikovic・先田和弘・向井信彦 共著
A5判/280頁/本体3,000円(税別)

ITText コンピュータネットワーク

松下 温・重野 寛・屋代智之 共著
A5判/216頁/本体2,500円(税別)

ITText 音声認識システム 

鹿野清宏・伊藤克巨・河原達也・武田一哉・山本幹雄 編著
A5判/216頁/CD-ROM付/本体3,500円(税別)

ITText エージェント工学

西田豊明・木下哲男・北村泰彦・間瀬健二 共著
A5判/226頁/本体2,800円(税別)

ITText ヒューマンコンピュータインタラクション

岡田謙一・西田正吾・葛岡英明・塩澤秀和・仲谷美江 共著
A5判/240頁/本体2,800円(税別)

ITText オペレーティングシステム

野口健一郎 著
A5判/240頁/本体2,800円(税別)

ITText データベース

速水治夫・宮崎収兄・山崎晴明 共著
A5判/196頁/本体2,500円(税別)

ITText ソフトウェア工学演習

伊藤 潔・廣田豊彦・富士 隆・熊谷 敏・川端 亮 共著
A5判/228頁/本体2,800円(税別)

ITText 情報リテラシー

海野 敏・田村恭久 共著
A5判/248頁/本体2,800円(税別)

ITText コンピュータアーキテクチャ

内田啓一郎・小柳 滋 共著
A5判/236頁/本体2,800円(税別)

ITText 応用Web技術

市村 哲・宇田隆哉・伊藤雅仁 共著
A5判/210頁/本体2,500円(税別)

ITText 認知インタフェース

加藤 隆 著
A5判/248頁/本体2,800円(税別)

ITText プログラム仕様記述論

荒木啓二郎・張 漢明 共著
A5判/210頁/本体2,800円(税別)

ITText 情報と職業

駒谷昇一・辰己丈夫・楠元範明 共著
A5判/232頁/本体2,500円(税別)

ITText アルゴリズム論

浅野哲夫・和田幸一・増澤利光 共著
A5判/242頁/本体2,800円(税別)

IT Text ソフトウェア開発

小泉寿男・辻 秀一・吉田幸二・中島 毅 共著
A5判/224頁/本体2,800円(税別)

ITText 基礎Web技術

松下 温 監修/市村 哲・宇田隆哉・伊藤雅仁 共著
A5判/200頁/本体2,500円(税別)

ITText 知識マネジメント

大澤幸生 編著
A5判/232頁/本体2,800円(税別)

ITText 情報セキュリティ

宮地充子・菊池浩明 編著
A5判/280頁/本体3,000円(税別)

会員皆様への「情報処理学会倫理綱領」遵守のお願い

最近、残念なことに、本会の著作権規程に違反するなど学会員としてのモラルを欠くような事態が見受けられます。本会では、学会員の倫理規範である「情報処理学会倫理綱領」を以下の通り設けておりますが、会員皆様におかれましては、この機会に改めてご一読いただき、学会員としての規範を遵守くださるようお願いいたします。

情報処理学会著作権規程は次のページをご覧ください。

「情報処理学会倫理綱領」

前文

我々情報処理学会会員は、情報処理技術が国境を越えて社会に対して強くかつ広い影響力を持つことを認識し、情報処理技術が社会に貢献し公益に寄与することを願い、情報処理技術の研究、開発および利用にあたっては、適用される法令とともに、次の行動規範を遵守する。

1. 社会人として

- 1.1 他者の生命、安全、財産を侵害しない。
- 1.2 他者の人格とプライバシーを尊重する。
- 1.3 他者の知的財産権と知的成果を尊重する。
- 1.4 情報システムや通信ネットワークの運用規則を遵守する。
- 1.5 社会における文化の多様性に配慮する。

2. 専門家として

- 2.1 たえず専門能力の向上に努め、業務においては最善を尽くす。
- 2.2 事実やデータを尊重する。
- 2.3 情報処理技術がもたらす社会やユーザへの影響とリスクについて配慮する。
- 2.4 依頼者との契約や合意を尊重し、依頼者の秘匿情報を守る。

3. 組織責任者として

- 3.1 情報システムの開発と運用によって影響を受けるすべての人々の要求に応じ、その尊厳を損なわないように配慮する。
- 3.2 情報システムの相互接続について、管理方針の異なる情報システムの存在することを認め、その接続がいかなる人々の人格をも侵害しないように配慮する。
- 3.3 情報システムの開発と運用について、資源の正当かつ適切な利用のための規則を作成し、その実施に責任を持つ。
- 3.4 情報処理技術の原則、制約、リスクについて、自己が属する組織の構成員が学ぶ機会を設ける。

注

本綱領は必ずしも会員個人が直面するすべての場面に適用できるとは限らず、研究領域における他の倫理規範との矛盾が生じることや、個々の場面においてどの条項に準拠すべきであるか不明確（具体的な行動に対して相互の条項が矛盾する場合を含む。）であることもあり得る。したがって、具体的な場面における準拠条項の選択や優先度等の判断は、会員個人の責任に委ねられるものとする。

付記

1. 本綱領は平成8年5月20日より施行する。
2. 本綱領の解釈および見直しについては、必要に応じて委員会を設置する。

情報処理学会は、研究論文等の印刷、配布又は Web 送信など、投稿者及び他の会員や社会の期待に応えるサービスを、情報処理学会の名声と権威にふさわしい質を維持しながら提供する必要がある。しかも、このサービスは将来予想される新技術や会員/社会のニーズの変化に柔軟に対応しつつ、安全かつ継続して提供できねばならない。

そのためには、情報処理学会が自己の名義の下で公表する著作物の著作権に関する取り扱いを明確にする必要がある。この規程ではかかる著作物の著作権を情報処理学会に譲渡してもらうことを原則とするものの、それによって著者ができるだけ不便を被らないよう配慮する。

(この規程の目的)

第 1 条 この規程は、本学会に投稿される論文等（本学会発行の出版物に投稿される論文、解説記事等及び本学会に投稿される研究報告、シンポジウム・全国大会・本学会が主催又は共催する国際会議などの予稿、プロシーディングス原稿等を含む。以下あわせて論文等という。）に関する著作者・投稿者（以下あわせて「著作者」という。）の著作権の取り扱いに関して取り決めるものである。

(著作権の帰属)

第 2 条 本学会に投稿される論文等に関する国内外の一切の著作権（日本国著作権法第 21 条から第 28 条までに規定するすべての権利*を含む。）は本学会に最終原稿が投稿された時点から原則として本学会に帰属する。

2. 特別な事情により前項の原則が適用できない場合、著作者は投稿時にその旨を投稿窓口あてに文書にて申し出るものとする。その場合の著作権の扱いについては著作者と本学会との間で協議の上措置する。

3. 本学会の出版物に投稿された論文等が本学会の出版物に掲載されないことが決定された場合、本学会は当該論文等の著作権を著作者に返還する。

(不行使特約)

第 3 条 著作者は、以下各号に該当する場合、本学会と本学会が許諾する者に対して、著作者人格権を行使しないものとする。

- (1) 翻訳及びこれに伴う改変
- (2) 電子的配布に伴う改変
- (3) アブストラクトのみ抽出して利用
- (4) 前各号の他の利用に伴う改変

(第三者への利用許諾)

第 4 条 第三者から著作権の利用許諾要請があった場合、本学会は本学会理事会において審議し、適当と認められたものについて要請に応ずることができる。また、利用許諾する権利の運用を理事会の承認を得て外部機関に委託することができる。

2. 前項の措置によって第三者から本学会に対価の支払いがあった場合には、本学会会計に繰り入れ学会活動に有効に活用する。

(著作者の権利)

第 5 条 本学会が著作権を有する論文等の著作物を著作者自身がこの規程に従い利用することに対し、本学会はこれに異議申し立て、もしくは妨げることをしない。

2. 著作者が著作物を利用しようとする場合、著作者は本学会に事前に申し出を行った上、本学会の指示に従うとともに利用された複製物あるいは著作物中に本学会の出版物にかかる出典を明記することとする。ただし、元の論文等を 25% 以上変更した場合には、この限りではない。また、3 項、5 項にかかわる利用に関しては事前に申し出ることなく利用できる。

3. 論文等のうち、本学会が査読の上論文誌（ジャーナル及びトランザクション。以下同じ。）への採録を決定して最終原稿を受領したもの及び会誌記事については、著作者は他の学会に投稿することはできない。なお、論文等のうち、研究報告、シンポジウム予稿、全国大会予稿、国際会議予稿、及びプロシーディングス原稿（以下「研究報告等」という。）については、研究の途中成果とみなし、著作者が当該研究報告等を研究の最終成果物とするため他学会等へ投稿する（以下「論文化投稿」という。）ことに対して、本学会は本学会が著作権を保有していることを理由に著作者および他学会等に対し異議申し立てを行わない。

4. 著作者が論文化投稿をするにあたり、著作権の返還を本学会に申請した場合、本学会は、当該著作者の申請が正当な理由によるも

のと認めるときは、当該研究報告等の著作権を著作者に返還する。ただし、当該著作者は、当該研究報告等に関し、本学会の運営上必要となる事項（第三者への複製許諾、学会が作成する Web サイト、CD-ROM 等への論文掲載等）を本学会が継続して実施できるよう、本学会に対して当該研究報告等にかかる著作権の利用許諾を行うものとする。なお、当該利用許諾については投稿先の学会等に事前に通知するものとし、本学会へ利用許諾を行ったことにより投稿先の学会等との間に紛争が生じた場合は、本学会は当該著作者と協力して、解決を図るものとする。

5. 著作者は、投稿した論文等について本学会の出版物発行前後にかかわらず、いつでも著作者個人の Web サイト（著作者所属組織のサイトを含む。以下同じ。）において自ら創作した著作物を掲載することができる。ただし、掲載に際して「情報処理学会倫理綱領」に則ること、ならびに本学会の出版物にかかる出典（当該出版物が発行された場合）及び利用上の注意事項**を明記しなければならない。

(例外的取り扱い)

第 6 条 他の学会等との共催行事に投稿される論文等の著作権について別段の取り決めがあるときは、前各条にかかわらず、当該取り決めがこの規程に優先して適用されるものとする。

(著作権侵害および紛争処理)

第 7 条 本学会が著作権を有する論文等に対して第三者による著作権侵害（あるいは侵害の疑い）があった場合、本学会と著作者が対応について協議し、解決を図るものとする。

2. 本学会に投稿された論文等が第三者の著作権その他の権利及び利益の侵害問題を生じさせた場合、当該論文等の著作者が一切の責任を負う。

(発効期日)

第 8 条 この規程は平成 12 年 4 月 1 日に遡って有効とする。なお、平成 12 年 4 月 1 日より前に投稿された論文等の著作権についても、投稿者から別段の申し出があり、本学会が当該申し出について正当な事由があると認められた場合を除き、この規程に従い取り扱うものとする。

*以下の権利を含む：

複製権（第 21 条）、上演権及び演奏権（第 22 条）、上映権（第 22 条の 2）、公衆送信権等（第 23 条）、口述権（第 24 条）、展示権（第 25 条）、頒布権（第 26 条）、譲渡権（第 26 条の 2）、貸与権（第 26 条の 3）、翻訳権、翻案権等（第 27 条）、二次的著作物の利用に関する原著作者の権利（第 28 条）。

**利用上の注意事項の例：

ここに掲載した著作物の利用に関する注意
本著作物の著作権は（社）情報処理学会に帰属します。本著作物は著作権者である情報処理学会の許可のもとに掲載するものです。ご利用に当たっては「著作権法」ならびに「情報処理学会倫理綱領」に従うことをお願いいたします。

Notice for the use of this material

The copyright of this material is retained by the Information Processing Society of Japan (IPJS). This material is published on this web site with the agreement of the author (s) and the IPJS. Please be complied with Copyright Law of Japan and the Code of Ethics of the IPJS if any users wish to reproduce, make derivative work, distribute or make available to the public any part or whole thereof.

All Rights Reserved, Copyright (C) Information Processing Society of Japan.

Comments are welcome. Mail to address editj@ipsj.or.jp, please.

ご意見をお寄せください！

【5月10日頃までにお出しく下さい】

宛先 (社) 情報処理学会 モニタ係 (下記のいずれからでも送付できます)
http://www.ipsj.or.jp/02moshikomi/enq/enq4604.html Fax(03)3518-8375 E-mail:editj@ipsj.or.jp
(E-mail で送信される場合は、10-1-a のようにコードでお答えください)

[コード]

1. ご氏名
2. ご所属 Tel. () -
3. E-mail:
4. 業種：(a) 企業 (サービス業) (b) 企業 (製造業) (c) 研究機関 (d) 教育機関 (大学・高専など)
(e) 学生 (f) その他 4-
5. 職種：(a) 研究職 (b) 開発・設計 (c) システムエンジニア (d) 営業 (e) 本社管理業務
(f) 会社経営・役員・管理職 (g) 教官/教員 (大学・大学院) (h) 教職員 (小・中・高校・高専など)
(i) 学生 (j) その他 5-
6. 年齢：(a) 10代 (b) 20代 (c) 30代 (d) 40代 (e) 50代 (f) 60代以上 6-
7. 性別：(a) 男性 (b) 女性 7-
8. あなたはモニタですか？：(a) はい (b) いいえ 8-
9. あなたのご意見は「会員の広場」(会誌および Web) に掲載される場合があります。その場合：
(a) 実名可 (氏名のみ掲載) (b) 匿名希望 9-
10. 今月号 (2005年4月号) の記事についてのあなたの評価をご記入ください。
[a…大変参考になった b…よい c…普通, どちらとも言えない d…悪い e…読んでいない]
- 創立 45 周年記念特別寄稿：情報という言葉を探ねて (1) 10-1-
- 特集：21 世紀卓越した情報研究拠点プログラムの目指す研究 (前編)
1. ユビキタス知識環境と知識メディア 10-2-
2. 情報科学技術戦略コア 10-3-
3. 情報通信技術に基づく未来社会基盤創生 10-4-
4. 社会情報基盤のための音声・映像の知的統合 10-5-
5. 知識社会基盤構築のための情報学拠点形成 10-6-
6. ネットワーク共生環境を築く情報技術の創出 10-7-
7. ユビキタス統合メディアコンピューティング 10-8-
8. システム情報科学での社会基盤システム形成 10-9-
9. 電子社会の信頼性向上と情報セキュリティ 10-10-
- 10.21 世紀 COE プロジェクト「プロダクティブ ICT アカデミア」 10-11-
- 組込みソフト産業の実態と開発の課題：組込みシステム開発の要素技術と標準化 10-12-
- Haskell プログラミング：関数プログラミングの妙味 10-13-
- ソフトウェアプロテクションの技術動向 (前編) 10-14-
- アメリカ IT まわりの話題：会社とブログ 10-15-
- 日本の IT 事情：IP の狭間で想うこと 10-16-
- 電子認証いまむかし：PKI がきた道 10-17-
- 20 世紀の名著名論：P.H. Lindsay and D.A. Norman : Human Information Processing : An Introduction to Psychology 10-18-
- 20 世紀の名著名論：R.A. Fisher :The Design of Experiments 10-19-
- 情報技術と医療：何とアンバランスなマンマシンシステム 10-20-
11. 特に興味を持ってお読みになった記事とその感想をお書きください。
12. 著者への質問、今後取り上げて欲しいテーマ、また「道しるべ」に取り上げてほしいテーマなどありましたらお書きください。

会誌担当理事に就任して初めて特集を担当いたしました。12月の会誌編集委員会にてCOE特集を組んでみたらと提案したら、すんなり通ってしまい、提案した本人が一番驚いています。実際に情報系の拠点をCOE事務局に確認したところ、全部で19拠点となり、4月号と5月号と2号続けての連載となりました。その後は、年末休暇に入る前に間に合わせないといけないと、必死に執筆のお願いメールを出しました。4月号は原稿締め切りから発行までぎりぎりのスケジュールであったため、執筆いただいた先生方には、本当にご無理を申し上げました。

COE関係では、電子情報通信学会2003年11月号に、東大と京大、中央大の3拠点の紹介と情報・電気・電子分野の審査委員長からの解説が掲載されたものがありますが、今回のよう

に2号合わせると18拠点多く紹介された例はないと思います。また、今回の特集では、採択から2年が経過し、成果を中心に紹介いただきました。したがって、過去の紹介とは異なる新たな発見があると思います。

各拠点では、異なる学科や学部が連合するという従来にない研究体制に果敢に取り組んでおられます。その一端を、読者、特に企業在籍会員にご理解いただき、新たな目で大学の研究を見直し、産学連携のきっかけになればと思います。忙しい先生方へぜひご無理なお願いを申し上げました。エディタのわがままを聞いていただいた執筆の先生方と、丁寧に編集いただいた和田編集長、後路氏、綿谷氏に感謝いたします。

(土井美和子/本特集エディタ)

次号(5月号) 予定目次

編集の都合により変更になる場合がありますのでご了承ください。

「特集」21世紀卓越した情報研究拠点プログラムの目指す研究(後編)

次世代メディア・知的社会基盤/大規模知識資源の体系化と活用基盤構築/生物とロボットが織りなす脳情報工学の世界/次世代ユビキタス情報社会基盤の形成/エージェントベース社会システム科学の創出/検証進化可能電子社会-情報科学による安心な電子社会の実現-/計算科学フロンティア/超速ハイパーヒューマン技術が開く新世界

解説

- 45周年記念特別寄稿：情報という言葉を探ねて(2) 小野厚夫
 成功するアウトソーシングの勘所 赤津雅晴
 SuperCon: スーパーコンピュータを使った高校生向けプログラミングコンテスト 松田裕幸
 機械翻訳システム評価法の最前線 隅田英一郎 他
 ソフトウェアプロテクションの技術動向(後編) -ハードウェアによるソフトウェア耐タンパー化技術- 門田暁人 他

連載 Haskell プログラミング/ Web サービス/ 組込みソフト産業の実態と開発の課題

コラム アメリカ IT まわりの話題/ 欧州の IT 技術とビジネス/ 情報技術と医療/ 電子認証いまむかし/ 20世紀の名著名論/ 日本の IT 事情

複写される方に

☐ <学術著作権協会依頼>

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、(社)日本複写権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の従業員以外、図書館も著作権者から複写権の行使の委託を受けている次の団体から許諾を受けてください。著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、直接当学会へご連絡ください。

〒170-0052 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル

学術著作権協会

E-mail: naka-atsu@muj.biglobe.ne.jp

Tel (03)3475-5618 Fax (03)3475-5619

ただし、アメリカ合衆国における複写については、右記の In the USA に記載の所へご照会ください。

Notice about Photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission from the following organization, which has been delegated for copyright for clearance by the copyright owner of this publication.

Except in the USA

Japan Academic Association for Copyright Clearance (JAACC)
 6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo
 107-0052, Japan
 E-mail: naka-atsu@mju.biglobe.ne.jp
 Tel: 81-3-3475-5618 Fax: 81-3-3475-5619

In the USA

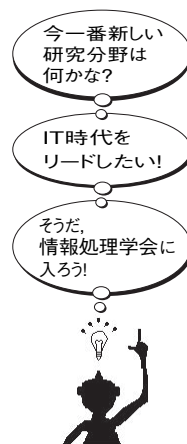
Copyright Clearance Center, Inc. (CCC)
 222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923, USA
 Phone: (978)750-8400 Fax: (978)750-4744
<http://www.copyright.com>

会員募集中!!

ITの最新情報、研究発表の場の提供を通じて、
 あなたのお役に立ちます。

詳しくはWebサイト <http://www.ipsj.or.jp/> をご覧ください

申込/照会先 社団法人 情報処理学会
 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館4F
 Tel(03)3518-8370(会員サービス部門) E-mail:mem@ipsj.or.jp



掲載広告カタログ・資料請求用紙

掲載広告の詳しい資料をご希望の方は、必要事項をご記入の上、E-mail:sei@ss-com.co.jp または Fax.03-3368-1519 へご請求ください。

「情報処理」 月号をみて

広告主名	製品名	希望項目 [※]	その他要望事項

※希望項目：A 購入希望, B 担当者から連絡・訪問希望, C カタログ希望

フリガナ
お名前

勤務先

所属部署

所在地

(〒 -)

TEL ()

-

FAX ()

-

ご専門の分野

広告のお問合せ・お申込みは・・・広告総代理店（株）精機通信社へ

発行 社団法人 情報処理学会
 発行部数 30,000 部
 体裁 A4 判
 発行日 毎当月 15 日
 申込締切 前月 10 日
 原稿締切 前月 20 日
 広告原稿 オフセット用ポジフィルム
 原稿寸法 1 頁 天地 260mm × 左右 180mm
 1/2 頁 天地 125mm × 左右 180mm
 雑誌寸法 天地 297mm × 左右 210mm

お問合せ・お申込みは

広告総代理店

（株）精機通信社 Tel.03-3367-0571

〒 169-0073 東京都新宿区百人町 2-16-13

Fax.03-3368-1519 E-mail: sei@ss-com.co.jp

■広告料金表

掲載場所	4 色	2 色	1 色
表 2	346,500 円 (税抜 330,000 円)	—	—
表 3	288,750 円 (税抜 275,000 円)	—	—
表 4	404,250 円 (税抜 385,000 円)	—	—
表 2 対向	315,000 円 (税抜 300,000 円)	—	—
表 3 対向	278,250 円 (税抜 265,000 円)	199,500 円 (税抜 190,000 円)	162,750 円 (税抜 155,000 円)
前付 1 頁	262,500 円 (税抜 250,000 円)	173,250 円 (税抜 165,000 円)	141,750 円 (税抜 135,000 円)
前付 1/2 頁	—	—	84,000 円 (税抜 80,000 円)
前付最終	—	—	155,400 円 (税抜 148,000 円)
目次前	—	—	155,400 円 (税抜 148,000 円)
差込 (A4 判 70.5kg 未満 1 枚)	288,750 円 (税抜 275,000 円)		
差込 (A4 判 70.5kg ~ 86.5kg 1 枚)	367,500 円 (税抜 350,000 円)		

* 上記料金はポジフィルム納入による料金です。

* 版下・製版等が必要な場合には別途実費申し受けます。

* 断切広告は上記料金の 10% 増です。ただし、表 4 は不可。